



金比羅火口Aを臨む参加者たち

2000年有珠山噴火遺構を巡り、防災、減災への意識を高めようと「有珠山噴火

を追う」（洞爺湖ビジターセンター主催）が、4月18日、16人が参加して行われました。

2000年の噴火を辿るということで、噴火の順番通り、最初に噴火が始まった旧とうや幼稚園をスタート。

洞爺湖ビジターセンター職員の佐々木伸さんのガイドで、西山火口山麓策路北口、ごみ焼却炉、金比羅火口A、金比羅火口災害散策路を辿り、終着のビジターセンターまで2.6kmの道のりを、災害遺構や植生の回復などを見学しながら歩きました。

## 2000年噴火の遺構を歩く 防災・減災への理解深める

## 遊びで地域の魅力を知る 子どもふるさと体験あそび講座

洞爺湖町と洞爺ライオンズクラブ（大西 智会長）が主催する「子どもふるさと体験あそび講座」が、4月18日、洞爺湖観光情報センター3階で開かれました。

ふるさとの長い歴史や地域を象徴する火山など、遊びを通して地域の特徴や魅力を知ってもらおうと行われたもので、24人の子どもたちが参加しました。

手作り紙芝居やフライパンなどのキッチン用品を使用



アンギン編みに挑戦する子どもたち

して火山を再現する体験のほか縄文時代に編まれていたアンギン編みにも挑戦しました。

## 本音で語るカタリバ 大学生が洞爺高校で出前授業

大学生が高校に出向いて授業を行う「出前授業カタリバ」が4月21日、洞爺高校体育館で行われました。

担当したのは、NPO法人いきたすが運営するカタリバ北海道で、大学生10人が来校し、同校3年生23人と進路や進学について語り合いました。

カタリ場は、2001年に首都圏の学生が始め、全国にひろがったもので、約2時間の授業を通して本音で高校生と語り合い、人生のきっかけをつかんでもらおうとするものです。最後に高校生らは、これからできることを宣言し、授業は終了しました。



大学生の話を真剣に聞く洞爺高校生



終了後写真に納まる園児と団地住民の皆さん

ゴミ拾いを通して地域との交流を深めようと、桜ヶ丘保育所の園児とのぞみ団地の住民らが、4月22日、保育所や団地周辺のゴミ拾いを行いました。

参加したのは、保育所園児、職員と団地住民合わせて23人。

当日は、保育所の駐車場に集合し、住民と園児がいっしょになりゴミを収集。

園児らは、火ばさみの代用としてトングやミニサイズの火ばさみを手に持って、楽しそうにゴミを拾い、大きなゴミ袋一つ分ほど集めました。

## 地域住民と園児が交流 春のゴミ拾い

